



▲アイユウの店は本州島西の下関市の住民地区にあり、食堂や浴室の地下に開設されている。◆同様サービス計画表とサービス実績記録の両面。1週間の動き一目でわかる。(左)◆サリハントの部署。(上中)◆内蔵監査機構も充実させた。「委員は事前に勉強して監査に臨むので、他組織の内容を

象は特別養老施設小規模「アイユウ」の運営・トヨコートステイ、併設のデイサービスセンター、在宅介護支援センター、ホームヘルプサービスだ。(その後、ケアマネジャーへシナジーへ転職した)、「あら、アーチャンバーへ来たわよ!」
しかし、「これでやめられたわけではない。一年ごとの定期監査査定と三年ごとの定期査定が待ちかま

えている。

「多忙な日々業務のなかでISO

の要求項目を実施し続けることは大変ですが、維持改善があるが故に忙しくても継続できています」

トータルでは大きなプラスです。

と江中さんは断言する。

ISOは昨年末の大軸改定で、顧客満足度や経営者の役割強化など、要求項目が増やされた。企画や医療サービスを提供する事業者にとって、その利用価値が高まったといえよう。松美公会では、改正されたISOの沿革を取扱い組みを始めた。

「若手職員が介護安全の180

00も取得できればと考えていま

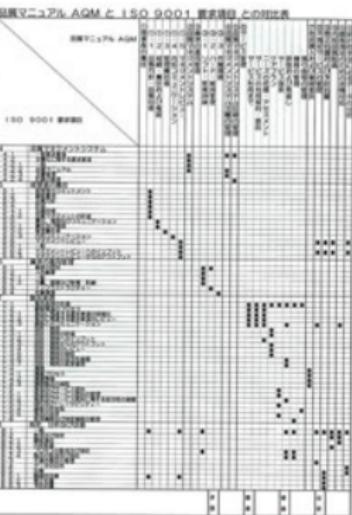
す」と江中さんの目標は通切れる

ことはない。

最後に、ISO取得後の感想と

「ISOにより、サービス内容

いま



等で活用されてい
る「ヒヤハット」を用意し、相談室)を用意し、相談室はほんの些細な点でも必ず記入し、再発防止策を考へるために

した。それ

を全職員に回観し、情報の共存化を図った。さらに、実施した検査結果の有効性も含めて評議し、受けられればならない。

推進委員会メン

バー一人、施設

セミナーでアレク

タの磯村時子さんは、「最初は失敗だったことを書くと上司からとがめられる心配があったらしく、なんとか説明ができた」と記しました。

しかし、失敗した個

人を赤裸々にするためのものではなく、「一度と二度とならないようにするための仕組みである」と説いていたところ、「二ヶ月後くらいから皆が喜ぶようになりました」。

人間性豊かな職員の育成が今後の課題

松美公会は、計画通り九十年十

月、ISOの認証を取得した。対

してはほとんどなくなったという。

また、転倒や跌倒予防をやす

められた手の一つに、洗濯機の

前部の蓋がある。それまでは半

ケド、手で物を運んでいたが、「ボケ

トの中を確認しましてかは、二

回ほどとなくなりました。

また、転倒や跌倒予防をやす

められた手の一つに、洗濯機の

前部の蓋がある。それまでは半

ケド、手で物を運んでいたが、「ボケ

トの中を確認しましてかは、二